

MINI REVIEW

Mini review series: Current topic in Hypertension



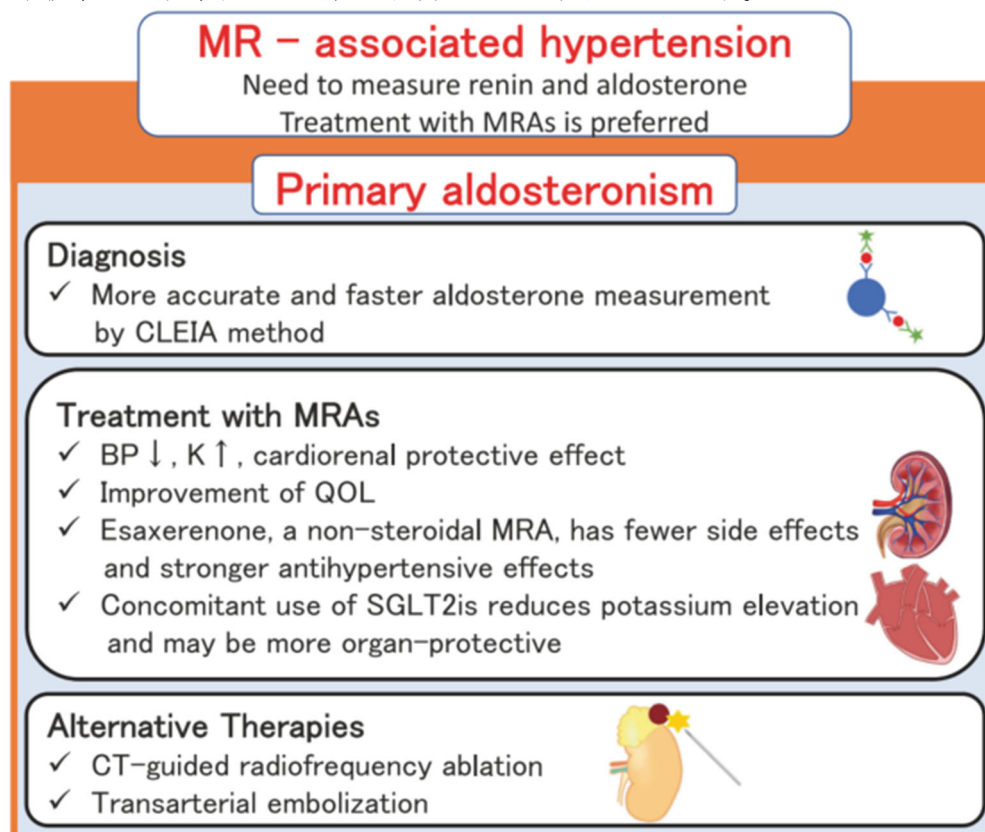
Recent progress in the diagnosis and treatment of primary aldosteronism

Yuichi Yoshida¹ · Hirotaka Shibata¹

Received: 28 November 2022 / Revised: 9 March 2023 / Accepted: 2 April 2023
© The Author(s), under exclusive licence to The Japanese Society of Hypertension 2023

日本語： 原発性アルドステロン症の診断と治療に関する最近の進歩

この論文は 2023 年に日本高血圧学会誌の **Hypertension Research** に掲載された review です。原発性アルドステロン症は近年、診断の基準が変わったり、新しい内服薬やラジオ波焼灼療法といった治療方法が開発されたりしています。特に、診断と内服薬の開発においては、日本は世界の中でも最も進んでいる国の一つと言えます。日本で開発された新しいアルドステロンの測定方法は、これまでの検査法よりも正確で測定時間が短いと言われてます。また日本でのみ使用可能な治療薬であるエサキセレノンには副作用が少なく降圧効果が強いと言われています。この論文ではそのような新しい情報を、エビデンスに基づいてまとめました。本執筆をご指導下さった柴田洋孝先生に感謝申し上げます。



HIRO'S EYE

内分泌糖尿病内科・講師 吉田雄一先生



吉田先生の原発性アルドステロン症に関する総説が掲載されました。

原発性アルドステロン症は、私が本疾患の日本および米国内分泌学会の診療ガイドライン策定に関わったこともあり、当院の外来や病棟でも主要な疾患です。診療ガイドラインでは、アルドステロンとレニン活性（濃度）の血液検査でスクリーニング検査の後に、アルドステロン抑制試験による確定診断、そして副腎静脈サンプリングによる局在診断を行って片側性疾患には片側副腎摘出術、両側性疾患や手術適応や手術希望がない症例にはMR拮抗薬による薬物治療を行っています。アルドステロンの測定法が本邦では変更になり、以前より低値を示すようになったことからスクリーニングの陽性率が低下しました。また、片側性疾患に対しても手術以外にもラジオ波焼灼術や経動脈的塞栓術など新しい治療法も登場し、新規非ステロイド型MR拮抗薬や複数のアルドステロン合成酵素阻害薬の臨床治験も進行しており、複原発性アルドステロン症の診療も進化してきています。しかしながら、最終的な予後に関してどの治療が最適であるかなどまだ不明な点も多いことから、当科でも症例を集積しながら長期予後の検討が必要です。本総説論文はそのような現状をコンパクトにまとめてあり、また自験例から血圧や内分泌ホルモンだけではなく患者のQOLの改善も認めたことも示してあります。原発性アルドステロン症に関しては、吉田先生を中心にして医局員、研究室配属学生などが総力をあげて今後も研究が発展することを期待しています。

（柴田洋孝）